

2026年2月1日

## 幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 2月えんだより

2月聖句：「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」

＜ヨハネによる福音書 15 章 12 節＞

例年以上に長く寒波が居座り、特に日本海側や豪雪地帯では生活のさまざまな面でご苦労も多いことと  
思います。大きな被害とならないよう願うばかりです。

園庭にも時折り雪が舞い、子どもたちはその景色に大喜び。ジャンパーについた粉雪を得意げに見せてく  
れています。この季節にしか味わえない自然を、お友だちや先生と一緒に走り回りながら存分に楽しんでい  
ます。

先日、阪神・淡路大震災から 31 年目の朝を園でも迎えました。全体で避難訓練に取り組み、幼児クラス  
では当時を経験した先生の話真剣に聴く姿がありました。自分のいのちの大切さ、そして自分と同じよう  
に他者のいのちにも思いを向ける大切な時間となりました。

今年の神戸・東遊園地の灯籠には「つむぐ」の文字が浮かび上がりました。「つむぐ」という言葉は、糸車  
で綿や羊毛から糸を生み出す繊細な作業に由来しています。現代社会では物理的・精神的・社会的な「孤  
立」が課題とされる中で、お互いに「つながる」ことの大切さが語られます。しかし、ただ横に並んでつな  
がるだけではなく、糸を撚り合わせていくように、一つひとつの関係が深められ“つむがれていく”ことこ  
そ必要ではないかと思わされます。糸には太さや強さ、色の違いがあり、それぞれに個性がありますが、撚り  
合わせることでより強くなります。聖書にも「三つ撚りの糸は簡単には切れない（コヘレトの言葉 4 章 12  
節）」とあります。

今月の御言葉には「互いに愛し合いなさい」とあります。私たちはそれぞれ育ちも経験も価値観も異なり  
ます。その中で、互いに愛し合うことが難しいと感じる場面もあるかもしれません。しかし、ともに過ごす  
こと、時間を共有すること、お互いに一歩踏み出してみること——その積み重ねの中で、違う景色や相手の  
存在に気づかされることがあります。

年長児の歩みからも、そのことを教えられます。YMCA では「バディ」を取り入れていますが、初めから  
うまくいく関係は多くありません。葛藤やぶつかり合い、主張の食い違い...思い通りにいかないこともあり  
ます。しかし、主体的に関わる中で自分を知り、相手の気持ちにも触れ、少しずつお互いを受け入れていく  
姿があります。決して良いことばかりではありませんが、その「うまくいかない」経験の中にこそ、関係が  
“つむがれていく”豊かさがあるように思います。そして、その見えないところにこそ神さまの働きがあるの  
だと感じます。

この園、この学年で過ごす時間もあとわずかになりました。一人ひとりが自分を愛し、互いを愛し、その  
中で「ともにある」ことを感じられる日々となりますように。

年主題：「ともに」 年主題聖句：「わたしはあなたと共にいる。」（イザヤ書 43 章 5 節）

2 月	乳児（0,1,2 歳児）	幼児（3,4,5 歳児）
月主題	だいすき	つながりあう／豊かになる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の祈る姿を見て、一緒に祈ろうとする</li> <li>・保育者や友だちとやり取りをしながら、その存在を楽しめるものと感じ一緒に過ごすことが増える</li> <li>・冬の自然を感じながら遊ぶ</li> <li>・自分のことばで神さまとお話してみる</li> <li>・友だちの存在をうれしいものとして感じ、一緒に遊びながらいろいろな思いに気づく</li> <li>・自然の不思議さやおもしろさに気づき、楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お祈りすること賛美すること、聖書のお話を聞くことで神さまがイエスさまを通して私たちとつながってくださっていることを感じる</li> <li>・友だちと遊びを繰り返す中で相手の思いに気づく。自分の思いを伝えることを保育者とともに経験する</li> <li>・寒い中でも庭の木の芽など次の季節への準備がなされていることに気づく</li> <li>・神さまの愛を感じ、友だちや家族、他者のために祈ろうとする</li> <li>・子ども同士で話し合いやめごとの調整をしながら遊びが豊かになり、その遊びが長くまた何日も続くようになる</li> <li>・寒さの中にあっても、日足が伸び、木々が次第に芽吹くことなどから春の準備が進んでいることに気づく</li> </ul>
讃美歌	幼児讃美歌 58 つくしのよう	こども改 131 かなしいことがあっても